

開かれた大学

2

TAP 取手アートプロジェクト

一九九九年から開催されている取手アートプロジェクトは、芸大取手キャンパスの教官・学生と、地域の人々が協同で運営するユニークな試みである。若手アーティストの育成に、大きな力を注いできた三年間の歩みを振り返る。

取手リ・サイクリング アートプロジェクト

1999

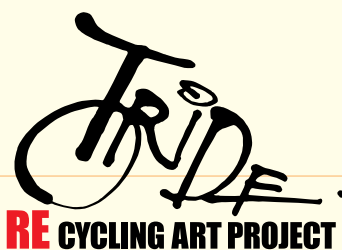
1999年4月の先端芸術表現科の設立を契機に催された第1回のプロジェクト。出品作品は前年10月に一般公募されたものから15点が選ばれた。町中に展示された多彩なアート作品を、観客は取手駅前に設置された色とりどりのリ・サイクル自転車に乗って、サイクリングを楽しみながら見て回るという、ユニークな鑑賞法が試みられた。ふだんは馴染みの薄いアートに親しみつつ、取手の町を再認識する機会を提供しようという試みである。



「取手リ・サイクリングアートパレット」JR取手東口駅前
放置自転車をリ・サイクルして作られたこの作品は常設され、TAPのシンボルとなっている



TAP99「屋台をつくらう!」村山華子
出品作家の村山華子は、翌年、先端芸術表現科に入学



リ・サイクリングアートプロジェクト ロゴマーク 日比野克彦デザイン

取手リ・サイクリング アートプロジェクト

2000

茨城県取手市は、東京のベッドタウンとして、新旧が混在した多様な表情を持っている。2000年のプロジェクトでは「家・郊外住宅」と題して、住空間をモチーフにした作品を募った。内外から応募された131点の作品プランを展示するプロポーザル展と、その会期中に開かれた公開選考会によって、6人の作家を選出。3人の招待作家の作品と合わせて、「住むこと」に対してさまざまな問題を提起する斬新な作品が取手に展開した。



TAP2000プロポーザル展 公開選考会
風景/磯崎新(建築家)今福龍太(文化人類学者)らゲスト審査員を迎えて公開で行なわれた



「Toride city 2000」
ホンマタカシ/制作中の作者と先端芸術表現科学生

「TAP 取手アートプロジェクト」について

渡辺好明

「取手アートプロジェクト」(通称TAP)は、一九九九年、東京芸術大学取手校地に発足した先端芸術表現科の提案により取手市で始められた文化事業です。本学(先端芸術表現科)と取手市行政機関(取手市役所、教育委員会、文化事業団、商工会)、そして市民(アート取手)が三位一体となって実行委員会をつくり、若いアーティストが育つために必要な機会を提供し、市民のアートに対する関心と意識を高め、地域における芸術文化の活性化を目指して、さまざまなアートプログラムの企画と運営を行なっています。二 年からは、公募による野外アート展「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」と取手在住作家等による「オープンスタジオ取手」が、毎年交代で開催されています。先端芸術表現科ではTAPを実践的教育の機会と捉え、授業の一環として取り組んでおり、毎年多くの学生が参加しています。

TAP2000「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」では、「家 郊外住宅」をテーマに、家そのものを使った大がかりなアートプロジェクトが、招待作家と全国公募で選ばれたアーティストにより市内各所で実現され、各方面から大きな反響をいただきました。

今年、TAP2001「オープンスタジオ取手」では、十一月二十四日～十二月九日の会期中、取手市在住作家のアトリエを公開する「オープンスタジオ」と、ニューヨーク在住のアーティスト、リチャード・ノナスを招聘して行なわれた「アーティスト・イン・レジデンス」をメインに、さまざまなゲストを招いての公開シンポジウム、取手市小学一年生全員による児童画展(市内全域の商店店頭に展示)、市民や子供を対象としたワークショップ、フリーマーケットなどが行われ、アートを幅広く楽しめる内容となりました。

また一過性のイベントに陥ることのないよう、年間を通して市民公開セミナーやワークショップ、シンポジウム、先端芸術表現科の授業公開などが継続的に行なわれて、関係者相互の意識の共有化が計られています。

(わたなべ・よしあき/美術学部先端芸術表現科助教授)

これら取手アートプロジェクトの詳細については、インターネットホームページを通じて逐次紹介されています。

URL: <http://www.toride-ap.gr.jp>

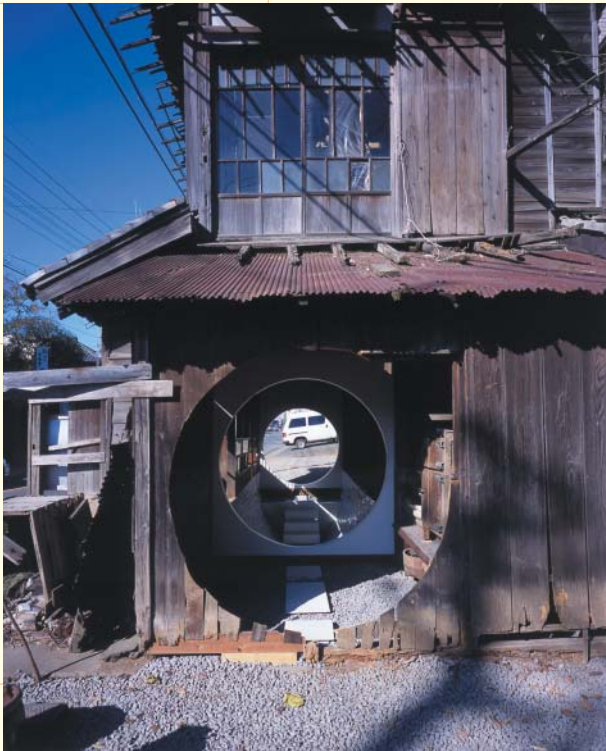
E-mail: tap-info@ima.ta.gedai.ac.jp



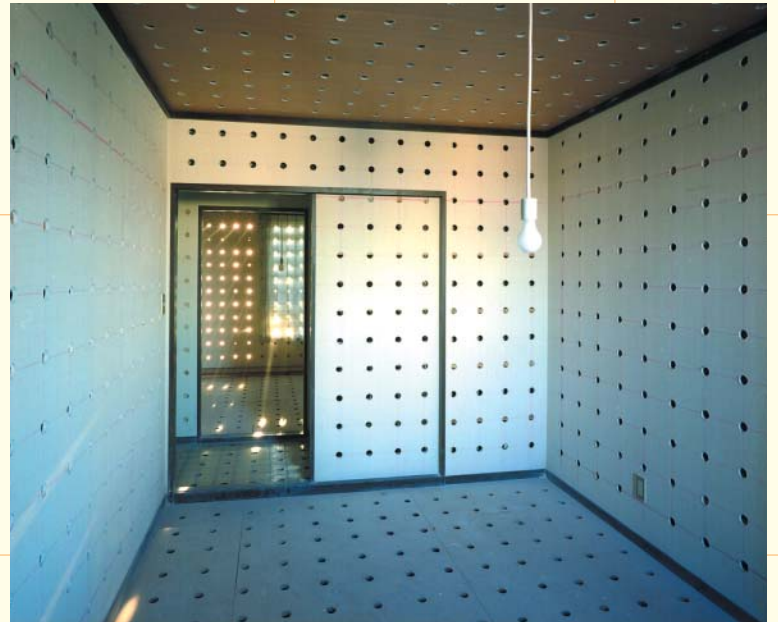
右：「REmain in Light」西島治樹 / この作品は、リンツ（オーストリア）のアルスエレクトロニカでメディアアート大賞候補に選ばれた。
上：制作中の作者と先端芸術表現科学生



制作を手伝う先端
芸術表現科学生



上：「タイムトンネル」田中大造 + 山崎一也



「ウチを開く」北川貴好



上：学生と打ち合わせを行なうレジデンスアーティストのリチャード・ノナス（上野キャンパス） 下：「オープスタジオ」工藤晴也助教授（壁画）の工房では様々なモザイク材料を見ることができた

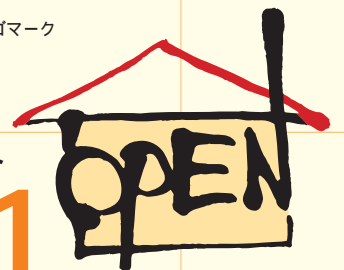


「オープスタジオ」アトリ工蔵
本学出身の3人の石彫家が農協から提供された穀物倉庫を共同スタジオとして改装して使っている

オープスタジオ ロゴマーク
日比野克彦デザイン

取手アートプロジェクト

2001



2001年のメイン企画は「オープスタジオ in 取手」取手市と同市に隣接する竜ヶ崎市、藤代町、利根町に在住するアーティストの制作現場を訪ねて、芸術創造の現場を体験しようという試みである。趣旨に賛同してアトリエを解放したアーティストは、芸大の助教授や卒業生から、地元の彫刻家、工芸家等さまざま。取手市の奥深さを感じさせた。先端芸術表現科・木幡和枝教授によるG.M.C（ゴードン・マッタ=クラーク検証プロジェクトの一環として、リチャード・ノナスによる アーティスト・レジデンス も開かれた。